

統合医療施設

全国から患者が来る“統合医療薬局”
カウンセリングしながら食事指導

市原薬局駅前店(千葉県船橋市)



●患者さんの話をじっくり聞く

街中の薬局と言えば、来店客の大半は地域住民というのが普通だが、千葉県船橋市で開業する市原薬局（☎047-423-6348、代表：市原章良）は、全国から患者が来店する異色の存在だ。理由は、専門医も一目をおく、がん患者へのサプリメント指導にある。

同薬局には、近くにある船橋医療センターや順天堂大学浦安病院から処方箋を持ち寄る患者が多いが、とりわけ目立つのが、化学療法を受けているがん患者。抗がん剤の副作用で免疫機能が低下し、食欲減退等の症状を抱える患者が毎日のように来店する。薬局長の市原さんは、勤務薬剤師の時代を含め18年間にわたってがん患者と向き合っていただけあって、患者の不安を取り除く話術を心得ている。

抗がん剤の知識はもちろん、腫瘍マーカーの見方、食事療法の知識、さらには民間療法や伝統医療の知識もひと通り身につけているので、患者からの信頼も厚い。市原さんに打ち明ける悩みは治療上の不安だけにとどまらない。職場や家庭内の問題など、主治医には決して言えないことでも市原さんには自然と話せる。そんな雰囲気があるのが同店であり、また市原さんの人柄でもある。

●写真やイラストを使ってわかりやすく説明

「まずは患者さんの訴えをじっくり聞くことが大事です。聞いているうちにその方が抱えている様々な悩みや問題が浮かび上がってきます」と話す市原さん。具体的な食事療法をアドバイスするにしても、同時にカウンセリングという精神的なサポートをしないと、ほんとうの意味で納得してもらえないという。

同店では、食事指導の一環で、免疫機能を向上させるサプリメントの摂取を推奨する。メーカーから、安全性データや免疫細胞を活性化させる作用を裏付ける試験資料を取り寄せ、難解な専門用語を患者さんにもわかりやすく翻訳したうえで、ポイントを説明する。また、イメージしやすいように、腫瘍細胞が縮小する模様を写した写真やイラストを使って、噛み砕いて説明する。

「文字や言葉を理解してもらうのは、簡単そうでいて実は非常に難しいんです。絵や写真を使うのは、有効成分がどのようにして免疫細胞を活性化させていくのかをイメージしてもらうためです」（市原さん）。イメージ療法は、患者の“治る力”を引き出すのに欠かせない補助療法だという。

サプリメントの組み合わせは、もちろん個々の患者さんのケースによって違ってくる。抗がん剤の種類、腫瘍マーカーの数値、一般生化学データ、体質などによって組み合わせパターンを決め、さらには同じ患者さんの場合でも、その時々体調によって変える場合もある。そのサジ加減は、18年間の経験から判断される。

●治療は医師、ケアは薬剤師

基本となる製剤で最も使用頻度が高いのが、細胞賦活用剤の「錠剤ルミンA-100γ」

だ。これは急性化膿性疾患や末梢神経性疾患などに効果・効能がある一般用医薬品だが、マクロファージを機能調節して、免疫力を高める働きがあることから、どのようなステージの患者さんにも推奨しているという。

冒頭で触れたように同店には、全国各地から多くの患者さんが来店する。最近では、評判が口コミで広がり面識のない患者からも電話相談が来るようになった。このため、最初にファックスやメールで検査データを送ってもらってから、電話でやり取りをする。電話相談は、時に1時間に及ぶこともある。

「必死の思いで電話をかけてくる患者さんの期待に応えられるよう、こちらも真剣勝負です。治療を行う医師と連携を取りながら、ケアについては薬剤師がしっかりサポートする。そんな統合医療の形をつくっていききたい」（市原さん）。

■市原薬局駅前店

〒273-0005 千葉県船橋市本町 4-5-21

TEL/FAX : 047-423-6348

E-mail : jov05726@inet.jove.co.jp